東白の松風

公立学校退職校長会東白川支部
発行責任者　古　張　金　一
◆創　　刊　平成２年８月１日

【巻頭言】　「学校現場の由々しき課題への思いと期待」

副支部長　面　川　春　男

今年の十大ニースに必ず入るであろうひとつは「大谷翔平選手」の50・50の達成。野球愛好者のみならず日本人全てに夢と希望を与えてくれたことです。そしてもうひとつは日本初の女性弁護士をモデルにした「虎に翼」の主人公が幾多の困難を乗り越えて夢を実現した姿です。裁判のシーンも多く法曹界が身近に感じられたこともあり、今年の最高裁判事・裁判官の国民審査にその結果が現れたそうです。

さて、教育界を振り返ってみると課題山積です。現在の教育界では全国的に教員採用試験の受験生減少が問題視され、本県での競争率も1.24倍であり児童生徒の学力向上は大変危惧される状況です。教員の働き方改革も喫緊の解決課題です。

更に小中学校の現場では不登校が過去最多の35万人に迫ったようです。本県も最多4338人、前年度比792人増と過去最多を更新しました。通学を無理強いしない保護者が増えたこと、特別な配慮が必要な子どもへの支援が不十分なこと等が増加の背景にあると県教委は公表しました。

本当にこのようなことが郡内でも起きているのでしょうか？キャリア教育を考えると将来の職業に教職を選択する子どもが増えるような方策を模索してもいいのかなと考えています。そのためにも困難を極めている学校現場へ私たちにできることはないのかなと考えています。不登校児童生徒への対応については、学校からの要請があれば本組織として協力できることもあると思います。子ども達への不安解消や保護者へのアドバイスや悩み相談等、学校や教員（担任）を補佐することができるのではないかと考えます。そして、楽しい学校生活を送ることができる子どもが少しでも増え、その中から将来小中学校の教員を職業選択に加える子ども達が育てば、これこそ我々組織として永年継続された課題解決に繋がるのになあと思っています。

＜退職校長会・現職校長会教育懇談会＞

令和６年７月２５日（水）　新富家会館

退職校長会２１名、現職校長会９名、計３０名が参加し、５年ぶりに開催されました。それぞれの参加者紹介を行った後、双方の概要説明を行いました。そして、５年ぶりのお酒の席で懇親を深めました。

＜現職校長の参加者紹介＞

＜懇親を深める現職校長と退職校長＞

第５８回福島県公立学校退職校長会二本松大会報告<概要>　古張　金一

◆期日　令和６年６月１２日　◆会場　二本松御苑

東白川支部として４名の会員が参加して参りました。

大会は、○開会式○講演○体験発表○大会宣言○閉会式と開催され、記念大会にふさわしい大会となりました。

<講演>「生きることは描くこと、生きることは演じること」　講師：大山采子氏

○ 父大山忠作氏についての講演があり、大変興味深い内容でありました。子を応援する気持ちは父親には十分にあったと成長して分かったことなど、家庭の在り方についても参考となるものでした。

<体験発表>

○「石川町歴史民俗資料館移転オープンにあたって」　石川支部　小針良仁氏

○「人づくりの指針」　耶麻支部　神田優子氏

○「富士山の見える阿武隈の山々」　いわき支部　矢内金吾氏

※ 令和８年度の県大会は、県南地区の白河支部が担当することになります。県南開催となりますので、大会の開催に向けて、東白川支部にも協力の要請があるかと思いますので、ご支援よろしくお願いいたします。

第５０回東北地区退職校長会協議会福島大会報告<概要>　古張　金一

◆期日　令和６年１０月８日～９日　◆会場　ホテル福島グリーンパレス

第５０回東北地区退職校長会協議会福島大会に東白川支部長として参加して参りました。

<講話>「学校が抱える課題解決」講師：全国連合退職校長会会長　田中昭光氏

○全国では、８０００人の会員減少により、予算も減少し、会報の発行回数を減らしたり、会議等を減らしたりしている。

○文科省から、地教委へ、そして現場の教員へ厳しい要求がある。

○地域全体で子どもを育てる礎がある。それが日本の教育である。

○教育の力が子どもたちの成長を助ける。原点にある指針から学ぶべきである。

○コミュニテイを支援し、PTA、我々が地域の子どもたちをみている。

○校長の方針を受け、地域として支援。互いの話の中で出し合って、学校の手伝いとして支援。学校教育のよさ、活動の評価をしてバックアップしていく。

○地域でできることを発揮していく。具体的にみて支援する。

○先生方を支援する視線　おやじの会での支援　困っていることを支援

○PTA活動のダウン　地域で子供を育てる活動を保護者を含めて広報や支援

○かかわりをもつ活動　学校支援活動が法制化している。

○文科大臣の発言　若手の初等中等教育局職員は理解しているが、予算化は少し。

○後援会の支援　公立校はない。PTA活動でお金を集めて支援することがなくなっている。

○PTA活動プラス後援会活動が私学はある。

○子どもたちの支援をどうすべきか、バックアップする活動を進めていただきたい。

○退職校長会に入ってくれない。活動をしていることを現職に知ってもらう。支援活動をしていることを理解してもらう。

※講話を要約すると以上のようになります。講話終了後、御礼の言葉を飯沼信一氏が行いました。その後、話題提供と協議があり、宮城県、山形県、福島県の3県の代表による発表がありました。

☆詳細につきましては、別紙をご覧ください。

【随想】「小さな幸せ日記」のすすめ　生方　和廣

～ 精神科医　保坂　隆　氏　推奨 ～

その日にあったハッピーな出来事を、思いつくままに書く。

○　日々の暮らしで小さな感動や喜びを積み重ねることは、大きな幸せにつながっていきます。まずは小さな幸せを探してみましょう。　（保坂氏の言）

令和　６年　７月　５日（金）　生方　和廣

朝早く起きる。お湯を沸かし、仏壇にお茶をあげる。それからおもむろにお茶を飲む。これが毎日の日課だ。朝のお茶は格別においしいと思っている。

健康な証拠だ。ありがたい。先祖さまに見守られているのかもしれない。

考えてみたら、健康だからおいしいのか、それとも健康維持にお茶が役立っているからおいしいのか。どちらなんだろう。

書物を読むと、お茶に含まれているカテキンという成分は、活性酸素を退治してくれている。活性酸素は、悪玉コレステロールと結びついて動脈硬化を引き起こし、心臓病をはじめとする重大な病気の原因となっている、と書かれている。いつの間にか高齢になっている自分にとって、無視できない大変重要なことのような気がした。

お茶がおいしいのはなぜか。当然のことながら茶の葉の品質により味が大分異なる。それと同時に水にも影響される。水がよいとお茶がおいしくなる。

当地域の水道の水源は、貝化石で有名な塙町堀越小高にあり、地層深くボーリングされている。貝化石の土層は青いゼオライトの層ともいえる。ゼオライトを含む土ならびにゼオライトの層から流れる小川の水を使った水田の米は、とてもおいしく新潟米に匹敵すると思っている。また、ゼオライトは放射能を濾過する働きが化学的にある。大震災のとき水素爆発した東京電力発電所に当地域の青いゼオライトを含む土がダンプで大量に運ばれ活用されたと聞いている。

とにかく、我が家の町の水道水は、販売されている名水よりも遥かにおいしい。考えてみればこの水を家庭菜園に潅水するというのも有り難い話ではないか。と今思っている。

いかがお過ごしですか？　～会員の皆様の生活の様子や想い～

「６年ぶりの大祭開催に思うこと」　秦　公男

塙町は大字(おおあざ)塙(はなわ)が６つの行政区に分かれている。これまで３年に一度、大字塙の大祭（本祭り）が開催されてきた。６つの行政区ごとに地区の大人に指導してもらいながら小学生たちが中心になって太鼓を叩いたり、笛を吹いたり鐘を鳴らしながら演奏をして、地域の大人や小学生以下の子が山車を引いて大字塙の町中を練り歩く催しが、古くから受け継がれてきている。しかしながら、新型コロナウィルス感染症が、日本でも流行した６年前と３年前は祭りが中止された。

私の子どもたちも２５年以上前の小学生の時に、地域の大人の方から太鼓の叩き方を指導して頂きながら、祭り前１ヶ月間ほど、近くのお地蔵様（元塙代官所跡）で毎晩のように練習していた。地域に子どもが多かった時代は、太鼓を叩くのは男の子だけだったそうだが、今では少子化の影響で男の子も女の子も一緒にやらないと祭りが成り立たなくなっている。今年の１１月３日は、各区の山車が塙駅前交差点に集合し、同じお囃子で演奏する「大寄せ」が行われた。総勢１００人を超える子どもたちの演奏は、数百名の聴衆に感動を与えた。これからも地域の祭りが続くことを願っている今日この頃である。

【賀詞伝達】　故　木村　澄男　先生　８８歳　昭和11年５月14日生

令和６年５月１４日誕生日当日に、古張支部長をはじめ本部役員４名でご自宅を訪問し伝達いたしました。

木村先生の初任地は長沼小・勢至堂分校合わせて６年間、その後須賀川二小に異動となり、当時全校生１６００人の体育主任としてご苦労されたそうです。東白の勤務は少なく、東館小４年、塙小教頭３年と塙中校長２年、青生野小教頭２年、鮫小校長４年の１５年とのこと。教員最後の学校は塙中で２年間勤務後、４月から塙町教育長となったそうです。へき地勤務は、古殿竹貫田小３年で、水土方式（水・土曜日に自宅に戻る）でご勤務されたそうです。当時は冬は雪が多く、春から秋は青生野経由で通っていたが、雪が降ると塙から上がれず、棚倉を通って行き来していたとのこと。

退職校長会東白川支部長時代の思い出は、平成２５年度県退職校長会東白川大会が倉美館・ルネサンス棚倉を会場に開催することになり、先輩の先生方には、遠くから来た会員の先生方の接待などお手伝いをいただき、棚倉町の茶道会のご協力で提供した日本茶は、お土産に鉢植えの花とともに参加された先生方にたいへん好評だったそうです。また、１３組の役場職員や教員の仲人をされたり、塙町の老人会長を１０年を務めたり、学校教育以外の面でも大きな功績を残されている先生でした。

これからも長い教職・行政経験等で培ったご経験を、本支部のためにお聞かせくださいますようにとお願いしてきたところでしたが、残念なことに８月２１日ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃　報

本会会員
木村　澄男　氏（８８歳）が、
８月21日に、ご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

東白文芸

俳句

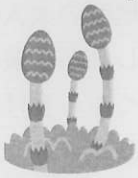
山口彌代

七十代までは、ボランティアやいろいろなことに本気で楽しんでやってきたが、八十代を迎えるにつれて、少しずつ身辺を整理し、本当に自分がしたいことは何かをじっくり考えた結果、二つのことに行き着いた。

一つは、へたな俳句を作ること。

二つは、へたでいい、へたがいいと言われる絵手紙を描くこと。

「へた」という言葉に救われ、これからも楽しんでいきたいと思います。



我が道を歩むと決めし土筆伸ぶ
疎を詫びる言葉詰まりし秋深む
半夏生少し紅さし人待てり
冬の虹まだ笑いたい学びたい
身辺を削ぎつつましく冬に入り

編集後記

コロナ感染症流行後、リモートでの会議や研修が増え、お酒を飲む機会も減ってきて、実際に顔を合わせて話す機会が少なくなってきています。そんな中、今年度は、支部総会の後の懇親会と現職校長会との懇談会が５年ぶりに開催されたことはとても良かったと思います。

（西牧・吉田）